

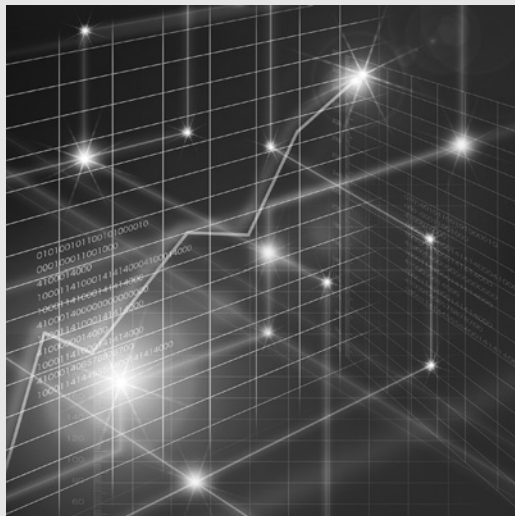
スーパー小型株 ポートフォリオ

追加型投信／国内／株式

日経新聞掲載名：S小型株

2023年3月15日から2023年9月14日まで

第 **53** 期 決算日：2023年9月14日



受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長をはかることを目標として積極的な運用を行います。当期についても、運用方針に沿った運用を行いました。

今後ともご愛顧のほどお願い申し上げます。

当期の状況

基準価額(期末)	33,867円
純資産総額(期末)	841百万円
騰落率(当期)	+16.0%
分配金合計(当期)	410円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

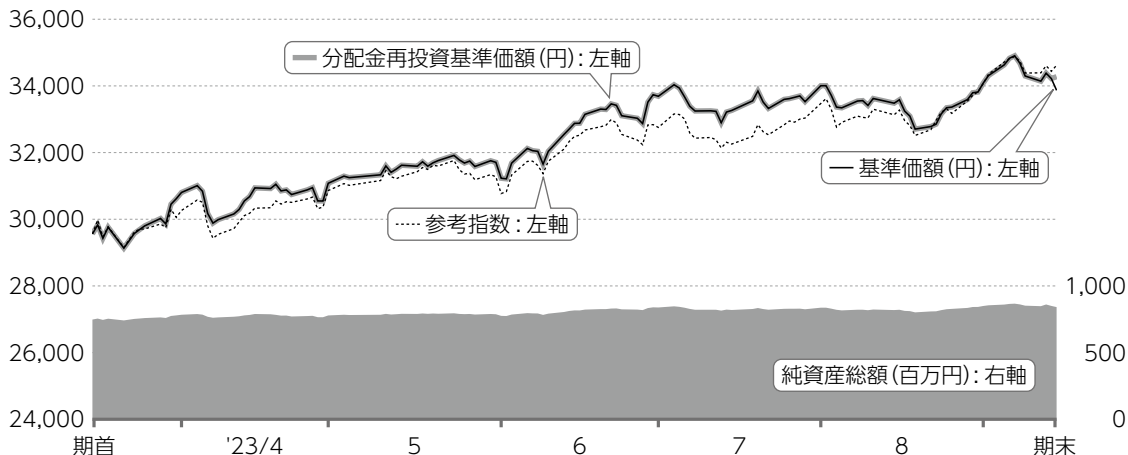
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額および参考指数は、期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

期首	29,559円
期末	33,867円 (既払分配金410円(税引前))
騰落率	+16.0% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの参考指数は、東証小型株指数です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

当ファンドは、日本の取引所に上場する小型株を中心に、技術力、経営力、成長性、市場性等を勘案して選定した銘柄に投資しました。

上昇要因

- オカムラ、物語コーポレーション、ペイロールなどの株価が上昇したこと

下落要因

- ダブルスタンダード、日本エム・ディ・エムなどの株価が低迷したこと

1口当たりの費用明細(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	215円	0.664%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は32,336円です。
(投信会社)	(102)	(0.315)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(95)	(0.293)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(18)	(0.055)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	7	0.023	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数
(株式)	(7)	(0.023)	売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数
(株式)	(-)	(-)	有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	6	0.019	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(-)	(-)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(6)	(0.019)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	228	0.706	

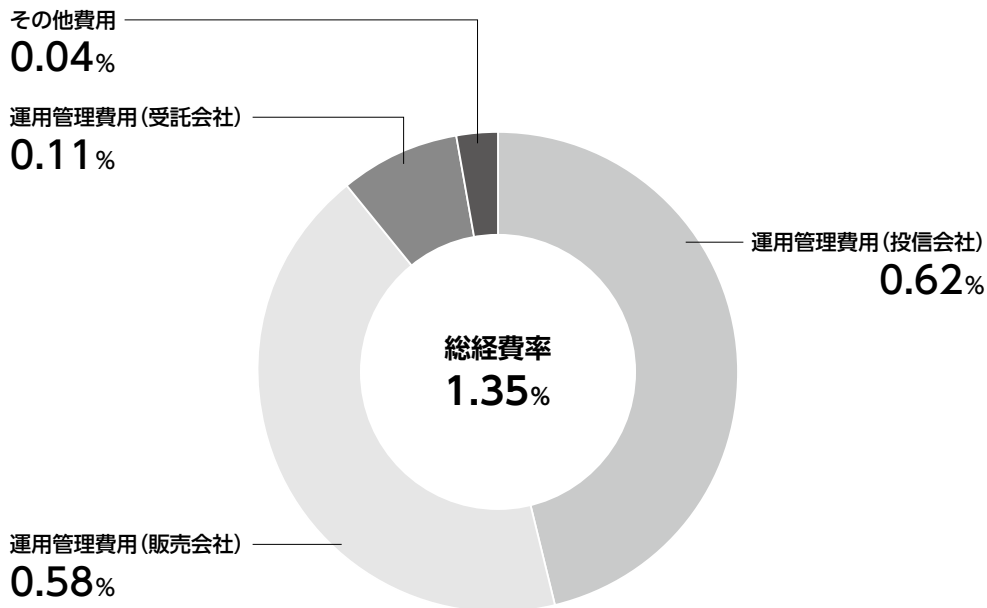
※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

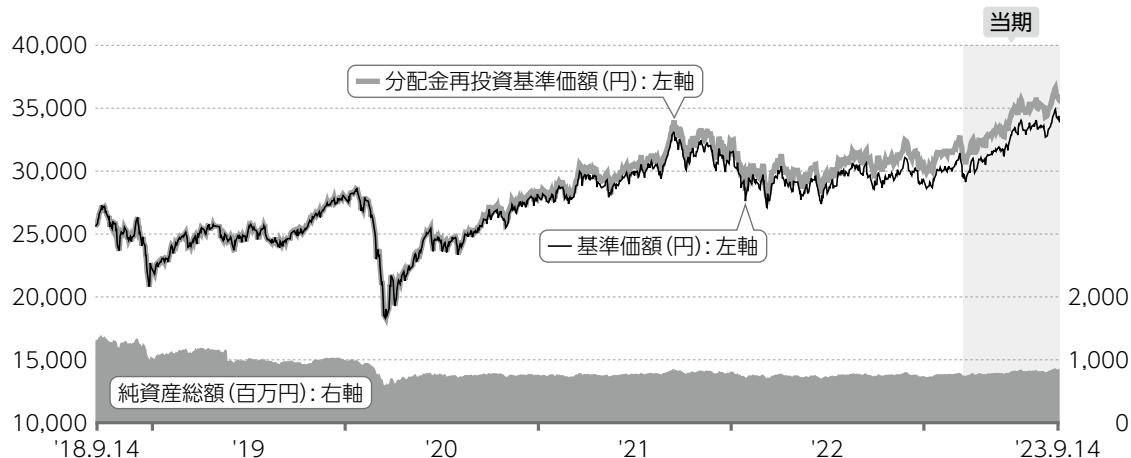
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.35%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年9月14日から2023年9月14日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2018年9月14日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.9.14 決算日	2019.9.17 決算日	2020.9.14 決算日	2021.9.14 決算日	2022.9.14 決算日	2023.9.14 決算日
基準価額	(円)	25,599	24,633	25,638	33,058	29,780	33,867
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	60	270	500	440	530
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	-3.5	5.2	31.0	-8.6	15.6
参考指数騰落率	(%)	—	-11.2	3.8	25.0	-9.7	19.3
純資産総額	(百万円)	1,303	977	767	852	763	841

参考指数について

※参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しています。

投資環境について(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

期間における国内株式市場は上昇しました。

期初は、米国の銀行破綻に欧州大手金融機関の経営不安の報道が重なったことでリスク回避の動きが強まる局面もありましたが、各国金融当局が不安解消に向けて対応策を迅速に打ち出したことで持ち直しました。

年度が変わっても、日銀の金融緩和方針維持による円安進展や海外投資家による日

本株買いが好感され、上値を切り上げて推移しました。根強い中国景気減速懸念や欧米の金融引き締めへの警戒感が上値を抑える場面もありましたが、日銀による長短金利操作の運用柔軟化の決定を無難に消化すると、米ドル高・円安が一段と進行する中、上昇基調が継続しました。

ポートフォリオについて(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

●株式組入比率

期初より90%以上で推移させました。期末は96.9%としています。

●業種配分

個別銘柄選定の結果、機械、情報・通信業などの組入比率を引き上げる一方、サービス業、卸売業などの組入比率を引き下げました。

●個別銘柄

アークランドサービスホールディングス、TOKAIホールディングス、バイク王&カンパニーなどを売却する一方、旭有機材、

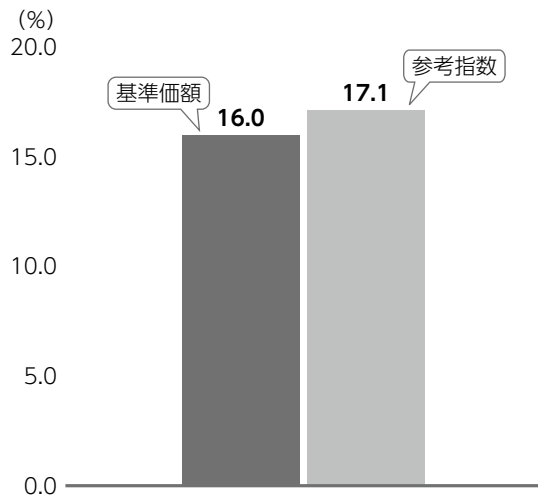
芝浦機械、帝国電機製作所などを買い付けました。個別企業の収益力・財務内容や株式の流動性・割安度などを総合的に勘案しつつ、足もとの業績動向も考慮して銘柄選定を行いました。

●ポートフォリオの特性

期末のサービス業、情報・通信業の組入比率がそれぞれ20.8%、25.3%(株式評価総額に対する比率)であるなど、内需敏感業種・銘柄を中心としたポートフォリオとしています。

ベンチマークとの差異について(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

基準価額と参考指数の騰落率対比



※基準価額は分配金再投資ベース

当ファンドは運用の指標となるベンチマークはありませんが、参考指数として東証小型株指数を設けています。

記載のグラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。

分配金について(2023年3月15日から2023年9月14日まで)

(単位：円、1口当たり、税引前)

項目	第53期
当期分配金	410
(対基準価額比率)	(1.20%)
当期の収益	410
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	23,867

期間の1口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、左記の通りといたしました。

なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたします。

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

世界景気については、全体として堅調に推移しています。株式市場は、当面レンジ相場になると予想します。堅調な国内景気や日銀による緩和的な金融政策の継続が株価の支援材料となる一方、中国経済の下振れや不動産問題が重石になると想定します。その後、世界的なインフレおよび雇用情勢、金融政策の動向をにらみながら、世界景気の先行きを巡る警戒が和らぐことによって、株式市場は一段と上昇する展開になると予想します。

個別銘柄に目を向けますと、バリュエー

ション(投資価値評価)からみて割安感のある銘柄が多く見受けられます。組入銘柄につきましては、個別企業の収益力・財務内容や株式の流動性・割安度等を総合的に勘案して選定し、引き続き銘柄選択に注力して運用を行います。

3 お知らせ

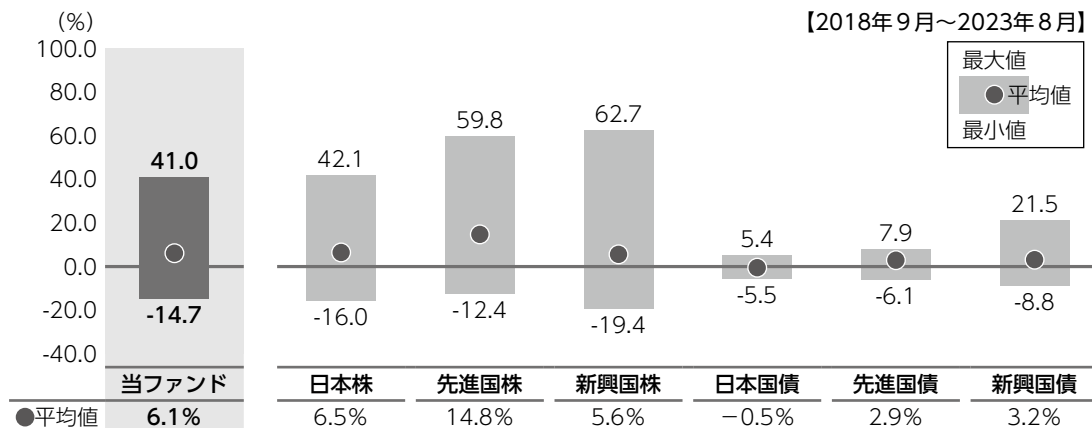
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式
信 託 期 間	1994年6月3日から2024年3月14日まで
運 用 方 針	日本の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長をはかることを目標として積極的な運用を行います。
主 要 投 資 対 象	日本の株式
当 フ ァ ン ド の 運 用 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資にあたっては、日本の取引所に上場する小型株を中心に技術力、経営力、成長性、市場性等を勘案して選定した銘柄に投資することを原則とします。 ■株価水準、企業動向の変化に応じて適宜銘柄入替えを行います。 ■株式組入比率については、株式市況、基準価額水準等を勘案して弾力的な運用を行います。
組 入 制 限	<ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資割合には、制限を設けません。 ■外貨建資産への投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。
分 配 方 針	<ul style="list-style-type: none"> ■年2回(原則として毎年3月および9月の14日。休業日の場合は翌営業日)決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準・市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配金は1口につき10円単位とします。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMオルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容(2023年9月14日)

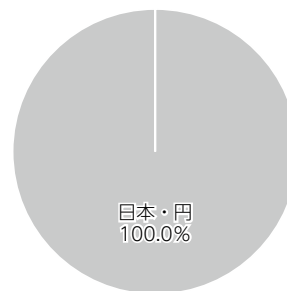
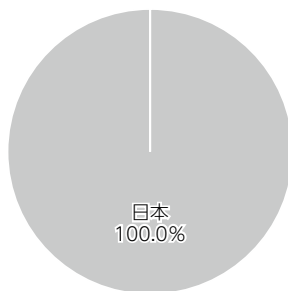
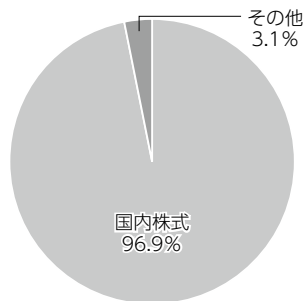
組入上位銘柄

	銘柄名	業種	組入比率		銘柄名	業種	組入比率
1	J B C Cホールディングス	情報・通信業	2.1%	6	太平洋工業	輸送用機器	1.4%
2	ベルシステム24ホールディングス	サービス業	1.6%	7	ホンカワミクロン	機械	1.4%
3	オカムラ	その他製品	1.6%	8	オープンアップグループ	サービス業	1.4%
4	広済堂ホールディングス	その他製品	1.5%	9	アイネット	情報・通信業	1.4%
5	スター精密	機械	1.5%	10	アイティフォー	情報・通信業	1.4%
						全銘柄数	98銘柄

※比率は、純資産総額に対する割合です。

※全組入銘柄につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

資産別配分(純資産総額比) 国別配分(ポートフォリオ比) 通貨別配分(純資産総額比)



※未収・未払金等の発生により、数値がマイナスになることがあります。

純資産等

項目	第53期末 2023年9月14日
純資産総額 (円)	841,301,773
受益権総口数 (口)	24,841
1口当たり基準価額 (円)	33,867

※当期における、追加設定元本額は14,920,000円、解約元本額は19,510,000円です。